

会議録

1 附属機関の名称

犬山市公益的活動促進委員会

2 開催日時

令和6年8月21日（水）午後6時30分から午後8時00分まで

3 開催場所

犬山市役所 205会議室

4 出席した者の氏名

- (1) 委員 佐藤正之、水内智英、山本剛毅、遠山涼子、林加奈、松元永己、谷口功
- (2) 執行機関 中村地域協働課長、日比野課長補佐、佐藤統括主査、柴田主事、水野主事補
- (3) オブザーバー 協働プラザ 森好佐和子

5 内容

○議題

- (1) 令和6年度町内会の「みらい」ミーティング実施結果について
- (2) 令和6年度市民活動助成金の進捗状況について
- (3) 令和7年度市民活動助成金について

6 傍聴人

0人

7 内容

① あいさつ（佐藤委員長）

※ 委員総数7名のうち、7名が出席し、過半数であるため、犬山市公益的活動の支援及び市民参加に関する条例施行規則第6条第2項の規定により、会議が成立。

② 議事

- (1) 令和6年度町内会の「みらい」ミーティング実施結果について
事務局より配布資料に基づき、説明。

〈質疑応答〉

・委員：このような取り組みをしたことが意味深い。各町会長が顔見知りになり、困りごとを共有するということは意味が大きかったと思う。

第一回は良かったと思うが、地域課題は解決策がすぐに見つからないので社会的な課題になっている。プロが行うデザイン分野でも社会的な課題はすぐに解決策が見つからないので、いきなり解決を目指すよりは、町会長同

士でどんな町内会や地域であることが望ましいのか、市のビジョンとまた違うビジョンを考えてみるのも良い。そのビジョンを達成するために、町会長としてどんな動き方ができるのか、ステークホルダーが地域にいるのか、というアプローチも今後試していくと良い。

- ・ 委員：協働プラザが中間支援組織として地縁団体に関われたことは、犬山市が市民活動において次のステージに行くための第一歩だと感じた。
ただ、このように課題を町会長と話した後、協働プラザはどのようにアウトリーチし、議論を深めるのか。
岡崎の地域交流センターでは、NPO 団体の「特定非営利活動法人岡崎まち育てセンター・りた」が中間支援組織として NPO・地縁組織を支援するといった活動をしている。協働プラザが外に出ていき、地域の声を聞きながらマッチングをしていく作業が、次の段階では必要だと思うが、何かその方向性について議論はされているか。
- ・ 事務局：そういったビジョンは今のところない。市民活動についての共有は密にとってきたが、町内会や地域活動はここがスタートである。
ただ、協働プラザを知ってもらえたことで、相談に足を運ぶ町会長が出てきている。これを踏まえて、今後どのような支援をしていくのか、協働プラザと共有しながら詰めていく。今回のミーティングに関する協働プラザとの反省会は、来週に予定している。
- ・ 委員：地縁型の町内会は、自分たちは市民活動でも公益的活動でもないという認識で語られてきた。市民活動というのは NPO 組織だけで、自分たちは NPO ではないという従来の思考もある。広く捉えて、地縁型も分野型も同じ市民活動として支援の対象であるという認識や理解を深められる学び場があると良い。
- ・ 委員：課題解決に向けての話し合いがスタートできているのが良い。ファシリテーターとしてコミュニティナースが活動するなど、内向けにならない取り組みになっている所が素晴らしいと思う。
町内会に対し、課題解決の地域の事例や、町内会とは規模が違うが小規模多機能自治の川北先生の講演などを提供できると、主観的な課題共有だけではない場になる。現状の課題に加えて、地域の年代構成、人口規模、将来どの地域に似ていくのか、その地域がどのような課題があるのかを掴むことで、今後の課題を予測できると思う。
また、課題を持っている当事者（町内会）、課題解決に関係する人たち（ステークホルダー）、類似している事例を持つ方々を招いて、地域の円卓会議をやっている島根県を参考にできるのではないかと。
町内会、NPO とともに、役員不足や担い手不足という課題を持っている。2015 年までの人口増加で、コミュニティ強化のために行事を増やしたが、人口が減っていき、担い手も流出していく状況で、これまでと同じ回数で行事を継続することも限界がある。その中で、事業の内容を見直すことが大事である。年度初めの 4 月から年度末の 3 月までに、何月にどのような事業やイベント

があり、どのような組織が働いているのか、それに向けた会議がいつ、何回あるのかというところを出してみると、近くの地域で同じ時期に夏祭りやっ
ていることが分かり、一緒に実施したり、会議を同日に設定して2回あった
会議を1回でできるなど解決の糸口が見えてくると思う。行事や事業の棚卸
というやり方もあると思うので参考にしてほしい。

- ・ 委 員：コミナスの今後の活躍に関わる話だと思う。継続的に地域の課題を解決して
いくと考えたときに、町会長は任期があるので、研修や話し合いに参加でき
る方は毎年変わる。しかし、軸として関わられるコミナスの活躍が期待される
ことを考えると、アウトリーチとして、この地域の伴走をこの方が担当する
といった形の組み合わせができ、具体的に進むのではないか。体制や予算の
こともあるが、そんな方向性で検討されるのも良い。また、コミナスの活動
を深掘りして紹介する機会があってもいい。
- ・ 委 員：協働プラザとの反省会は、ファシリテーションに関わったコミュニティナ
ースも交えての反省会なのか。
- ・ 事 務 局：協働プラザ職員とコミュニティナースを含めた形で考えている。
- ・ 委 員：そこが重要で、反省会の蓄積が大事である。
代替わりしていく町会長がいつかコミュニティナースになる可能性がある
ならば、300を超える町内会から数名でも出れば良い。
当日、市長はどのような形で参加したのか？
- ・ 事 務 局：冒頭に挨拶をいただき、ワークショップ中は各テーブルを周り、話し合いの
様子を見て、話を聞いていた。最後に、講評と感想をいただいた。
- ・ 委 員：話し合いの状況を見てもらうということにより関わりだと思う。

(2) 令和6年度市民活動助成金の進捗状況について
事務局より配布資料に基づき、説明。

〈質疑応答〉

- ・ 委 員：子どもマイクラ観光のイベント保険は0円で大丈夫なのか。参加費0円は理
解できるが、イベント保険0円はまた別なのではないか。保険に入っていない
が、割とアクティブに動いている印象を受けた。
- ・ 事 務 局：企画、調査、建築、広報の4テーマあり、調査の日以外は室内の為、大きな
事故は起こらないだろうという想定で0円にされている。事業実施直前とい
うこともあり、団体の意思を尊重し、変更を処理した。
- ・ 委 員：子どもが参加する事業では、参加者の保護者から、保険に入っていないこと
を突っ込まれる場合もある。経験談として、怪我人が出た際、10人以下だと
話し合いの範囲内で解決できるが、20人を超えると話し合いでは解決が厳し
くなる。そういうことを加味し、保険に入るかどうかは皆さんで判断してほ
しいことを補足しておかなければいけない。
小学生は予期せぬ行動をすることもあり、年配者とぶつかってしまったとき

に保険を使った経験もある。最近の保護者の中には、子供が言うことを聞かなくて事故が起こったときも、主催者に責任転嫁する方もいるので、参考にしてほしい。

- ・委員：今回説明があった変更内容については理解したが、子どもマイクラ観光と犬山生成 AI 実行委員会は、わざわざこの助成金を使って事業を行う目的がつかめない。マイクラフトの（プログラミング）塾も増えており、生成 AI 分野のワークショップを無料で経験したこともあるので、実施することは良いと思うが、親子交流を目的としたボランティア活動としてでもできるのではないか。
申請者の助成金を使う目的が分からない。市民活動助成金の意図を理解して変更してくれているのか教えてほしい。
- ・事務局：最初に団体と話したときは、かなり事業ベースだと感じた。話を聞くと、犬山市とのつながりが欲しいという発言もあり、正直なところ市民活動というより事業の面が大きいのかなと感じている。
- ・委員：いい助成金があったので使おうと思われたのかもしれない。町内会の「みらい」ミーティングで出た課題に対して、生成 AI を使って町内会にサポートしてくれたりしたら良いと思う。
- ・委員：プレゼンでもそういった意見があったと思う。生成 AI を使うことで社会課題にどう貢献できるのか。行政や協働プラザが団体に対して助成金への理解を深められるならば良いが、それでもビジネスが主軸になるなら残念に思う。市民活動は、公益的な活動であると理解してほしかった。
- ・事務局：事務局としては、助成金の申請が 1 回目の団体なので、生成 AI の認知を広げるための 1 回目と解釈して、今後に期待している。来年度以降助成金をとるなら意義をしっかりと伝えていく。
- ・委員：地域と都市の教育格差はある。都市部にあって犬山にないものは減らしていきたいので、学びの場、交流の場として実施してもらえると良い。また、犬山生成 AI 実行委員会には、本質的に助成金の意義を理解してもらいたい。
- ・委員：数値目標で市民の参加と地元企業 3 社との連携とあるが、私自身、数値目標についてかなり気にしていたので、達成できることを期待している。

(3) 令和 7 年度市民活動助成金について

事務局より配布資料に基づき、説明。

〈質疑応答〉

- ・委員：先ほどの議事でもあったが、犬山生成 AI 実行委員会など事業性がある団体は、地域課題解決につながっていくかが分からない。改めて募集要領を見ると、助成金の意図や意味は書いてあるが、伝えきれていないのだと思う。例えば、趣旨が大事なのであれば、チェックリストの形にして、募集要領につけてはどうか。本当に理解してほしい項目や、理想とする内容を確認できる

ところがあっても良い。

- ・事務局：今回の募集要領を作成するにあたり、他の市町村の要領を調査した中でいくつかあった。参考にしていきたいと思う。
- ・委員：提案書を提出した後の修正や、提案時の空欄が多いのではないかと思うがどうか。チェックリストを含め、電子申請は検討されているか。
手書きの書類が良くないということではないが、全国的に見ると、電子申請が一般的になってきている。
- ・事務局：電子申請はメールではなくフォームを使って申請するということか。
- ・委員：フォームの認識であっている。必ず記入しなければ、申請できないようなシステムになると良い。
- ・委員：申請が難しい（通りにくい）ケースを伝えておくのはどうか。こういう内容はダメ、という事例があってもいい。
- ・委員：事業計画書について、可能であれば別紙3の1は事業計画書にも入れてほしい。今日の変更申請の中でもあったが、なぜこの事業を行うのか、取り組む課題や背景を知りたい。その上で、事業内容が分かると、審査しやすく、団体への理解が深まると思うので、検討してほしい。
- ・事務局：今年度の提案書は、協働プラザへの相談が必須となったこともあり、実施背景が書かれているものも多かったが、記入欄にはないので、前向きに検討したい。
- ・委員：未成年者のみで構成されている団体が助成金を制限されるのはやむを得ないと思うが、せつかく出てきた若者のやる気を削がないよう、市や協働プラザでアドバイスやフォローができると良い。
- ・事務局：昨年度報告した未成年の団体は、未だ登録申請が出てきていないため、今後、提案したい未成年の団体が出てきた場合はサポートしていく。

④ その他

- ・無し